

着こなしのアドバイスも

一方、せうかくオーダーであつらえるのだから、それを存分に生かして着こなそうとのアドバイスを含めたビジネスも花開いてい

る。
女性だけで作るベンチャー型のアパレル企業「エニーズ」(本社・大阪市)では、「年間スタイリング契約システム」を基本としたオーダービジネスに取り組んでいる。

月々2万円、年間24万円で契約すると、キャラクターとスタイリストという言葉を足した「キャラリスト」という専属アドバイザーがつく。オーダーメイド服の注文を受けるだけでなく、おしよれの仕方やイメージ仕様の相談にまで乗ってくれる。男性物の場合、この金額内で「スーツ1着、シャツ2枚、ネクタイ2本、靴1足」のパックが年々同額。

昨年2月に設立された会社で、大阪、東京、福岡を拠点に約35人の「キャラリスト」が、訪問による受注やアドバイスを行っている。3000人以上を超える顧客は、30~40歳代のビジネスマンが中心だが、徐々に女性も増え、最近では1割から2割へと伸びてきた。それに伴い、女性向けのスーツのボタンを増やし、靴やバッグ、アクセサリーやスカーフなど小物類も順次パックに組み入れていく予定だ。

ユニクロの対極めざす

「どんな服が合うかは、その人とじっくり話して、仕事内容から会社の雰囲気、本人の好みを熟知しないといけない。大量に生産された安い服が手に入るのも便利だが、その人だけのものも大切にしたい。ユニクロを否定するわけではなく、ユニクロの対極にあるビジネスを目指します」と、「エニーズ」の川崎昌子社長は言う。女性同士が助け合える企業にしようと、シングルマザーを積極的に雇用するなど、ユニークな試みも始めている。



コーディネート相談に乗ってくれる新ビジネスも新宿区のエニーズ東京支店で。